

髄膜炎菌→髄膜炎菌ワクチン（メナクトラ®）

髄膜炎菌は髄膜炎や菌血症、敗血症の原因となります（侵襲性髄膜炎菌感染症といいます）。

侵襲性髄膜炎菌感染症の初期は、風邪に似た症状（発熱、咽頭炎、嘔吐、頭痛など）のため、診断が難しく、早期に適切な治療を受けにくい病気です。また、病状の進行がとても早いのも特徴です。

症状は発症後 12 時間で急激に悪化し、高熱、激しい頭痛、羞明（光がとてもまぶしく感じます）、意識障害、けいれんを起こすおそれがあります。菌血症となり、重症化する前に発疹や皮下出血が出現します。

侵襲性髄膜炎菌感染症は無治療だと 50%、適切な治療をしても 10～20%の死亡率とされ非常に危険な感染症です。神経障害や手足の切断といった後遺症も 10～20%で起きるとされています。

2 歳未満の小児と 15～19 歳の青少年がかかりやすいのも特徴で、特に寮や合宿での集団生活で感染のリスクが上がります。

髄膜炎菌という名前ですが、髄膜炎はこの菌だけでなく Hib、肺炎球菌などいろいろな病原体が原因となります。

予防

髄膜炎菌ワクチン（メナクトラ®）があります。対象者は 2 歳～55 歳で、1 回 0.5ml を筋肉注射します。アメリカでは 11～12 歳で 1 回、16 歳で追加接種を 1 回と 2 回の接種となっておりますが、日本では 1 回接種です。